

昨今、今後の高齢化および人口減少などの社会問題に対応するために地域包括ケアシステムの構築が謳われている。本来このシステムは、高齢化・人口減少等に対応するための施策である。しかし、当院周辺地域のような高齢化や人口減少が進んだ地域ほど地域包括ケアシステムの構築にあたり様々な課題が散在している。

2020年度「地域とともに成長しよう！」をスローガンに、リハビリテーション室では、回復期リハ・一般および地域包括ケア病床・外来リハの3つの機能において、多職種・関係機関の連携を中心に在宅復帰および社会参加支援の「質」と「量」の強化に努めた。

1. 人員体制

- 専任医：5名（回復期リハビリテーション病棟専従1名）
- 理学療法士：18名（2019.7～より産休者1名）
- 作業療法士：15名（2019年度より産休者2名、2020.8～産休者1名）
- 言語聴覚士：5名（2020.5～産休者1名）

2. 2020年度リハビリテーション処方依頼状況

リハビリテーション処方依頼件数は、入院疾患別リハビリテーション612件、外来リハビリテーション77件、摂食嚥下療法40件、計729件であった（表-1）。

表-1 リハビリテーション依頼件数の推移

| | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|--------|------|------|------|------|------|------|
| 入院 | 711 | 676 | 720 | 589 | 635 | 612 |
| 外来 | 78 | 71 | 73 | 100 | 81 | 77 |
| 摂食機能療法 | 75 | 42 | 15 | 30 | 29 | 40 |
| 合計 | 864 | 789 | 808 | 719 | 745 | 729 |

3. 2020年度入院疾患別リハビリテーション分類

(1) 患者属性

男性280名、女性332名、
平均年齢80.4歳（男性77.4歳、女性83.4歳）

(2) 疾患別リハビリテーション分類（表-2）

表-2 入院リハビリテーション疾患別分類

| | 脳 | 運動 | 呼吸 | 廃用 | がん | 消炎 | 摂食 |
|------|-----|-----|----|-----|----|----|----|
| 2020 | 122 | 227 | 48 | 165 | 10 | 0 | 40 |
| 2019 | 130 | 235 | 79 | 140 | 11 | 2 | 29 |
| 2018 | 148 | 255 | 71 | 116 | 10 | 6 | |
| 2017 | 152 | 257 | 46 | 112 | 22 | 4 | |
| 2016 | 131 | 304 | 90 | 162 | 31 | 2 | |
| 2015 | 150 | 252 | 64 | 167 | 42 | 1 | |

4. 2020年度外来リハビリテーション処方依頼状況

(1) 患者属性

男性31名、女性46名、
平均年齢64.75歳（男性62.48歳、女性67.02歳）

※神経心理検査は患者属性に含まない

(2) 疾患別リハビリテーション分類（表-3）

表-3 外来リハビリテーション疾患別分類

| | 脳 | 運動 | 呼吸 | 廃用 | 心理検査 | 消炎 |
|------|---|-----|----|----|------|----|
| 2020 | 8 | 64 | 3 | 2 | 93 | 0 |
| 2019 | 4 | 108 | 0 | 0 | 149 | 8 |
| 2018 | 8 | 66 | 0 | 5 | 175 | 2 |
| 2017 | 4 | 96 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| 2016 | 8 | 66 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 2015 | 5 | 64 | 0 | 0 | 3 | 1 |

5. アウトカム評価

～在宅復帰率とFIM利得および疾患別リハビリテーション分類～
対象：2020年4月1日～2020年3月31日までに当院のリハビリテーションを受けて退院した患者

(1) 病棟（床）別在宅復帰率とFIM利得及び疾患別リハビリテーション分類

○一般病床

対象：退院者102名（男性53名、女性49名）
平均年齢80.26歳（男性85.1歳、女性75.7歳）

疾患別リハビリテーション分類（表-4）

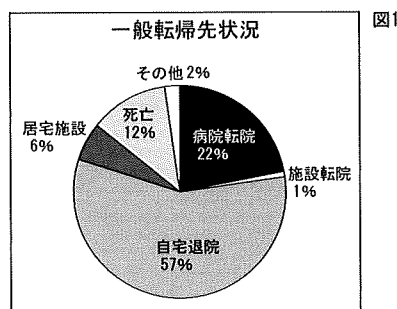
一般病床在宅復帰率及び転帰先状況（表-5）及び（図-1）

表-4 一般病床疾患別リハビリテーション分類

| がん | 脳血管 | 運動器 | 呼吸器 | 廃用 | 摂食 |
|----|-----|-----|-----|-----|----|
| 6 | 15 | 20 | 11 | 44 | 6 |
| 6% | 15% | 19% | 11% | 43% | 6% |

表-5 一般病床在宅復帰率及び転帰先状況

| 病院転院 | 施設転院 | 自宅退院 | 居宅施設 | 死亡 | その他 |
|------|------|------|------|-----|-----|
| 23 | 1 | 58 | 6 | 12 | 2 |
| 22% | 1% | 57% | 6% | 12% | 2% |



○地域包括ケア病床

対象：退院者220名（男性108名、女性112名）

平均年齢81.68歳（男性80.3歳女性82.9歳）

疾患別リハビリテーション分類（表-6）

地域包括ケア病床在宅復帰率および転帰先状況（表-7）および（図-2）

地域包括ケア病床疾患別リハビリテーション分類

| がん | 脳血管 | 運動器 | 呼吸器 | 廃用 | 摂食 |
|----|-----|-----|-----|-----|----|
| 1 | 16 | 66 | 35 | 102 | 0 |
| 1% | 7% | 30% | 16% | 46% | 0% |

表-7 地域包括ケア病床在宅復帰率及び転帰先状況

| 病院転院 | 施設転院 | 自宅退院 | 居宅施設 | 死亡 | その他 |
|------|------|------|------|----|-----|
| 17 | 13 | 166 | 18 | 6 | 0 |
| 8% | 6% | 75% | 8% | 3% | 0 |

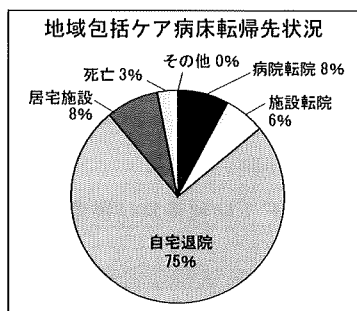


図2

○回復期リハビリテーション病棟

対象：退院者225名（男性89名、女性136名）

平均年齢78.81歳（男性74.1歳女性81.8歳）

疾患別リハビリテーション分類（表-8）

回復期リハ病棟在宅復帰率および転帰先状況（表-9）および（図-3）

表-8 回復期リハビリテーション病棟疾患別リハビリテーション分類

| がん | 脳血管 | 運動器 | 呼吸器 | 廃用 | 摂食 |
|----|-----|-----|-----|----|----|
| 0 | 96 | 128 | 0 | 1 | 0 |
| 0% | 43% | 57% | 0% | 0% | 0% |

表-9 回復期リハビリテーション病棟在宅復帰率及び転帰先状況

| 病院転院 | 施設転院 | 自宅退院 | 居宅施設 | 死亡 | その他 |
|------|------|------|------|----|-----|
| 14 | 22 | 162 | 27 | 0 | 0 |
| 6% | 10% | 72% | 12% | 0% | 0% |

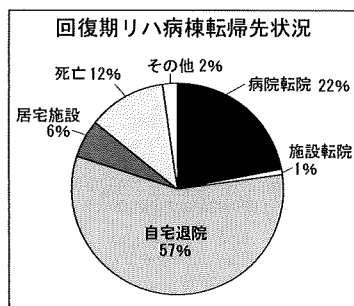


図3

(2) 病棟（床）別 F I M 利得（表-10）

| | 入院(床・棟)時 F I M | 退院時 F I M | F I M 利得 |
|----------------|----------------|-----------|----------|
| 地域包括ケア病床 | 79.04 | 89.07 | 10.02 |
| 回復期リハビリテーション病棟 | 73.46 | 98.48 | 25.02 |

6. リハビリテーション室における2020年度のまとめと今後の課題

- ・リハビリテーション総依頼件数は2019年度と比較すると、入院・外来ともに減少し、疾患別においても、廃用リハ以外ですべて減少となった。
- ・一般病床においては、2019年度と比較すると、総単位数は3,765単位の増加となり、平均介入患者数においても1.88人増加した。疾患別リハ患者は減少したが、リハ介入患者数の増加に伴い、一般病棟における収益は6,668,220と増収に至った。
- ・地域包括ケア病床においては、2020年度平均介入患者数は32.83と2019年度と比較して-6.84の減少し総単位数も-2201単位となった。これは、12床を新型コロナウイルスの受け入れ病床への変更が大きな要因と言える。一日平均リハビリテーション提供単位数は2.34と施設基準を維持できている。
- ・回復期リハビリテーション病棟における入棟者数は、2020年度は225名であり2019年度を若干数上回った。しかし、リハビリ提供総単位数は-3,937単位、平均延べ入院日数も-65日と減少しており、-¥4,158,510の減収となった。これは、回復期リハビリテーション入棟におけるリハビリテーションの積極的介入可能な患者の減少、新型コロナウイルスによる転院調整制限やMRI更新に伴う新規受け入れ患者数の減少も影響したと推察された。回復期リハビリテーション病棟実績指数は53.15、F I M 利得25.02、在宅復帰率も82.0%と基準を良好に維持できている。
- ・リハビリテーション室においては、質の高い入院患者の在宅復帰・社会復帰支援を実施することである。しかし当院周辺の高齢化・過疎化・人口減少によりその支援における多様性・複雑化・重度化が進行している。今後当院の在宅介護支援室などとの連携をさらに強化し、その使命を果たしていきたい。